

■財務部

1. 概要

当法人の財務状況は、2017年度決算において、医業収入47,121百万円を計上した。これは、医業収入前年比+1,538百万円(うち入院収入+912百万円・外来収入+512百万円・保健予防活動収入+24百万円他)。医業費用は47,112百万円、前年比+1,851百万円(うち材料費+766百万円(医業収益割合30.3%・前年比+0.6%)特に抗癌剤等の使用量の増加及び診療材料費のカテーテル等高額な材料の使用量増加等によるもの。また給与費、前年比+795百万円これは主に看護師増加88名(7対1看護基準取得)を始め医療技術者等の増加、既存職員給与の自然増によるもの。今期は賞与引当金繰入計上せず、賞与引当金250百万円の取崩しを行った。その結果、医業利益9百万円、経常利益135百万円、税引前利益19百万円となった。

今期6月から7対1看護基準を取得、また森の里病院地域包括ケア病棟が3月完成したこと等、新たな設備資金等の借入は計画通り行った。2017年度も資金繰りの安定化を図り、有利子負債の圧縮及び調達金利水準の低減化を昨年に続き強化した。これにより、新規設備投資資金の借入額を除く有利子負債は、前年比▲808百万円の圧縮を行った。また平均金利も1.360%となり前年比▲0.107%の成果を収めることができた。

2018年度も、前年度に引き続き安定的資金確保を図るべく、既にシンジケートローンの組成が整い、低金利での年度資金調達枠が確保できている。

2. 2018年度推進計画

計画①〔財務の視点〕

診療報酬の改定等に伴い「中期経営計画」の見直しをする。2019年3月までに、2020年度までの財務計画を作成する。

計画②〔顧客の視点〕

2018年度の損益・資金繰り計画については、2018年度上期実績を十分に検証し、必要に応じて下期の修正計画を策定する。

計画③〔内部プロセスの視点〕

2019年10月消費税増税に備え、財務部内の情報収集等体制整備を強化する。

計画④〔学習と成長の視点〕

財務部員のスキルアップを図るため、2018年度も係替えによる仕事の互換性を図ると共に各種研修へ積極的に参加する。

3. 2017年度評価

計画①〔財務の視点〕

2017年度有利子負債は、借入金総額を年間医業収益の75%程度に留める様2016年度と同様努力する。

〔結果〕71.46%となり計画比△3.54%と計画を達成した。

計画②〔顧客の視点〕

2017年度の損益・資金繰り計画については、2017年度上期実績を十分に検証し、必要に応じて下期の修正計画を策定する。

〔結果〕2017年度下期の損益・資金繰り修正を行ったが、損益状況は計画を大きく下回った。

計画③〔内部プロセスの視点〕

2017年度新会計システムの運用が開始し、課員の理解度向上も含めより安定稼動を目指す。

〔結果〕イレギュラーな問題に対しても、全課員が理解を得た。他部署会計システム担当者からの質問に、何時でも対応できる体制を整えた。

計画④〔学習と成長の視点〕

財務部員のスキルアップを図るため、2017年度も係替えによる仕事の交換性を図ると共に各種研修へ積極的に参加する。

〔結果〕外部講師による税務研修会を行うなど、課員全員のスキルアップが行われ着実な実力アップに繋がったが、各種外部研修会への参加は低調であった。

文責：野口正之